

世界の歌劇場に名を轟かせたテノール U.ハイルマンが指導者・指揮者として学生と共に！



ウーヴェ・ハイルマン 指揮

鹿児島国際大学教会音楽シリーズNo.13
音楽学科4年制改組10周年コンサートツアー

Matthäus-Passion BWV.244

J.S.バッハ作曲 マタイ受難曲 (全曲・字幕付)

岡山公演

2019.3/24(日)

開演15:00(開場14:30)

岡山市建部町文化センター

入場料(全席自由) 2,500円

鹿児島公演 3/15(金)

鹿児島市民文化ホール

東京公演 3/21(木・祝)

第一生命ホール

神戸公演 3/23(土)

神戸栄光教会礼拝堂

総監督 & 指揮：ウーヴェ・ハイルマン

ソリスト：鹿児島国際大学音楽学科声楽コース
学生・院生・卒業・修了生

合唱：鹿児島国際大学音楽学科合唱団

管弦楽：鹿児島国際大学《マタイ》管弦楽団

総括・字幕・印刷物デザイン制作等：村原京子

賛助出演：倉敷少年少女合唱団



主催：鹿児島国際大学国際文化学部音楽学科 お問い合わせ：099-263-0773
後援：鹿児島県教育委員会 鹿児島市教育委員会 南日本新聞社 MBC南日本放送
KTS鹿児島テレビ KKB鹿児島放送 KYT鹿児島読売テレビ NHK鹿児島放送局

岡山お問い合わせ：086-270-1737
チケット：岡山シンフォニーホールチケットセンター
ぎんざやプレイガイド、アルスクらしき

Matthäus Passion

J. S. バッハ作曲 《マタイ受難曲》 BWV244

総監督&指揮：ウーヴェ・ハイルマン ソリスト：鹿児島国際大学音楽学科声楽コース学生・院生・卒業・修了生

合唱：鹿児島国際大学音楽学科合唱団（鹿児島国際大学音楽学科学生・院生・一般）少年合唱パート：倉敷少年少女合唱団

管弦楽：鹿児島国際大学《マタイ》管弦楽団 コンサートマスター：長田 新太郎（Iオケ）原田大志（IIオケ）

総括・字幕・印刷物デザイン作成等：村原京子

§ 《マタイ受難曲》概説

プロテスタント教会音楽の最高峰、バッハの最高傑作《マタイ受難曲》。バッハのライブツィヒ時代、彼のカンタータを作詞した詩人ピカンダーが、バッハと相談しながら新約聖書「マタイによる福音書26章1節～27章66節」からイエスの受難に関する章を軸に、自らの自由詩を挿入した台詞を提供。これを音楽史上最高の作品と言われる受難曲（オラトリオ）に創り上げたバッハ。彼がカントール（合唱長）を務めるライブツィヒ聖トーマス教会において、1727年4月11日（復活祭前の受難週聖金曜日）に初演された二重オーケストラと二重合唱を伴う膨大な作品です。全体は二部で構成され、福音史家・イエス・群衆等により受難曲の根幹となる聖書朗読、レチタティーヴォとアリアで語り歌われる自由詩、16世紀初期以来馴染み深いコラール（ルター派の賛美歌）から成り、序曲と終曲では大合唱が高らかに歌われます。

あらすじ：これから始まるイエスの受難が合唱で告げられ、「イエスの十字架上の死の予言」「最後の晩餐と弟子ユダの裏切り」

「イエスの予言（ペテロの否認・イエス自らの復活の予言）」「イエスの祈りと苦悩」「イエスの捕縛」「イエスの裁判」

「ペテロの否認・嘆き」「ユダの自殺」「イエス処刑への連行」「イエスの死」が時系列的に扱われ、終曲の合唱でイエスの別れを歌い、復活への期待を込めて曲を閉じます。《マタイ》では「キリストの復活」それ自体は歌われません。

§ 《マタイ受難曲》に想うこと

★ 《マタイ》を通して伝えたい音楽神髄

バッハの《マタイ受難曲》はオラトリオの最高最大作品です。少年合唱団時代以来《マタイ》を歌い続け、後にドイツを中心に世界の教会&ホールで150回を超えるエヴァンゲリスト（福音史家）ソリストを歌い経験してきました。此処日本で私が《マタイ》を通して伝えたい事、伝えねばならない事、それはバッハ&ドイツ宗教音楽の精神・スタイル、バッハの響きなのです。キリスト教・教会と共に生れ発展したヨーロッパ音楽。バッハを、バロック宗教作品を学ぶ事こそが音楽の基盤であり、人間教育に通ずるものと確信しています。学生達はホールで歌うオペラのアリアや合唱とは全く異なる声質（聖堂の響き、高い石作りのドームに響き渡る澄み切った声）を知的に感覚的に吸収し、表現しはじめています。近年、首都圏を中心に学生合唱団を背後にプロ歌手（又は教員）のソリストによる《マタイ》公演は行われますが、学生ソリスト&合唱団が歌う《マタイ》全曲演奏ステージは珍しいのではないのでしょうか。信仰が無いから宗教曲は理解できない、ドイツ語？その様な心配はいりません。バッハの魂の響きを感じるのに日本人、ドイツ人の差はありません。バッハの音楽は全ての人々を包み、《マタイ》の魂へと導いてくれるでしょう。

（ウーヴェ・ハイルマン）

★音楽人生を決定づけた忘れえぬ《マタイ》体験

学生時代、音楽研究の楽しさを感じ始めた頃の音楽史講義。バッハ研究第一人者の教授は熱く一言「《マタイ》に感動しない奴は音楽学、いや音楽する資格は無い！」「バッハ、マタイ福音書による受難曲 etc.」知識としては頭にあっても、聴いた事ありません。周囲の級友達を見廻すと皆良く知っているらしい顔々々！焦り、即レコードを買い込み「素晴らしい！感動だ！！」と来る日も来る日も聴き続けました。その後間もなくミュンヘン・バッハ合唱団が来日《マタイ》上演。クラス中が集団で上野文化会館へ。《マタイ》では完全に遅れをとっていた私は敢えて独り（旧）横浜県立音楽堂公演へ。冒頭の二重オーケストラ&合唱が鳴り始めた途端、身体中に戦慄が走り最後迄感動に身震い、紅葉坂を涙しながら下ったあの日。其れまで「感動だ、感動だ！」と信じていたのは、言い聞かせ思い込みの感動だったのです。以来「真の音楽・演奏の裏づけとなる音楽研究」こそが我音楽学の精神中枢となりました。世界の名テノール歌手として、少年合唱団時代を含め《マタイ》を歌い続け、音楽・宗教・精神的にも作品を知り尽したハイルマン教授。全パートを暗譜で巧みに歌いこなす氏の指導の下、知識・技術、精神を学んでいる幸運な学生達です。

（村原京子）

鹿児島国際大学音楽学科声楽コース紹介

2010年4月鹿児島国際大学短期大学部音楽学科は、4年制学部へ改組、2019年4月に10周年目を迎えます。その間、声楽コースはU.ハイルマン&中村智子教授の教育方針・指導の下、毎年オペラ、オラトリオシリーズを掲げ、厳しい訓練を重ね10周年目を迎えます。オペラ：モーツァルト《魔笛》《後宮からの逃走》《ドン・ジョヴァンニ》ブッチーニ《蝶々夫人》

教会音楽：バッハ《マグニフィカート》《教会カンタータ》

《クリスマス・オラトリオ》《マタイ受難曲》バッハ&シュツ《ヨハネ受難曲》ハイドン《天地創造》モーツァルト《レクイエム》ヘンデル《メサイア》等、全て原語・全曲演奏の舞台を経験してきました。この経験を基礎に卒業・修了生を出して数年、数多くの学生がドイツ音楽大学大学院に合格・留学中です。



賛助出演：倉敷少年少女合唱団 2018. 11/25 全国大会（写真 cSTAFF TES）